

生徒指導通信

新潟県立三条東高等学校
生徒指導部
令和元年6月19日 No.3

○すばらしい！感動した！三条東高校体育祭！！

6月5日（水）当日の朝から日差しはやや強いながらも気持ちいい風が吹く中、体育祭が開催されました。本年度は赤、青、紫、黒の4軍対抗で準備から応援練習等、短期間での活動期間であり、また運動部では県総体の時期が体育祭準備の時期に重なり慌ただしい日程でしたが、3年生が中心となり各軍の1、2年生をまとめ上げ、すばらしい感動的な体育祭となり日焼けした顔が誇らしげでありました。

ぜひこのすばらしい生徒達の活躍がこれからの学校生活に続いてほしいと思います。

それには気持ちの「切り替え」、「めりはり」が大切です。「体育祭はすばらしかったのに…」なんてことにならないよう、御家庭でも生徒の行動を期待して見守っていただきたいと思います。



○いじめという意識・・・

平成25年に制定された「いじめ対策推進法」には以下のように定義されています。

第2条：この法律において「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。

“いじめ”は当たり前のことながら絶対あってはならない行為です。もし、被害にあってしまった場合や周りにいじめを受け困っている人を見かけたら、速やかに相談できる人に迷わず相談してください。全く恥ずかしいことではなく、いかなる理由があっても守られるべき人権です。学校としてもしっかりと対応していきます。

また、自分自身の行動が、他の人に対して不快な思いをさせていないか等、改めて考える必要もあると考えます。加害者のな立場になっている人の中には“いじめ”という認識がなく、無意識の行動の中でそうになっているケースも少なくありません。



気持ちよく学校生活を送るために“いじめ”に関して無関心であってはならず、それぞれの立場を理解した言動ができるよう心がけましょう！

○不審者に注意！！



今年度に入り、本校の生徒に関わる不審者情報の報告はありませんが、全国ニュースでもありました、不審者による犯罪行為を目にすることが多くあります。まずは「君子危うきに近寄らず」の言葉のとおり、不審者に遭遇しないようにすることが大切です。人通りの少ない暗がりや駐車場は危険と考えられます。多少回り道でも危険を回避するようにしましょう。また、夜道を歩く時、携帯電話や音楽を聴きながらなど、周囲の状況がわからないのは非常に危険な状態で、相手（不審者）からすると隙だらけです。夜道だけでなく、日中も同様に気をつけること。

それでも遭遇してしまったら、「明るく、人の多い、広い通りへ」まずは逃げること。また、危害を受けそうになったら、大声を出して周りに知らせる（防犯ブザーも効果的）ようにしましょう。

○服装、身だしなみ再度確認して下さい

衣替えから3週間ほど経過しました。服装や身だしなみについては大丈夫でしょうか？改めて、服装や身だしなみからしっかりと、生活を送るようにしましょう。

夏用の服装になり、以下の部分が特に気になります。確認の上、以下のこと以外でも直すべきところは直し、不要な指導を受けることのないようにしましょう。

①男女共通でYシャツ、ブラウスの下に着る場合は白、黒、グレー等で華美でなく無地のものを着ること。(本校の体操着は可)

※白以外のTシャツや柄(文字も含む)の入ったものは透けて見え、だらしく見えます。

②半袖のシャツの袖を折って(まくって)着用しない。(特に女子生徒)

※もともと半袖なので、まくる必要がないことと、脇の下から下着が見えてしまうことがある。

③女子のブラウスの第一ボタンを外し、リボンを緩めて着用しない。

※暑いという理由でボタンを外すことなく、開襟シャツ等を着用しましょう！



○社会規範を考える～「疲れすぎて眠れぬ夜のために」(著：内田樹)より～

以下の文章を読んで、自分はどうか考える機会として下さい。

“背中を意識を蘇らせる”より

前略～「武士は食わねど高楊枝」というのは、空腹という「内面」よりも、背筋を伸ばして^{いき}骨が「外面」を優先させるという意味です。目の前にお札が落ちていても、人を掻き分けて拾うようなふるまいは「さもしい」と感じることです。～中略～よく言われることですが、日本人にはキリスト教の神さまのような、全知全能の神さまという概念はありません。人が見ていないところでも、神さまが見ているから恥ずかしいことはできない、というのがキリスト教文化です。

『菊と刀』で、ルース・ベネディクトはこれを「罪の意識」と呼びました。それに対して、日本人は他人の目が気になるので、恥ずかしいことができない。これは「恥の文化」であると書きました。



でも、このとき、日本人を恥に入らせる「他人」は、別にそこに具体的にいる人間のことでないのです。

「人さまには見せられないがまだ」とか「世間に顔向けできない」というような場合の「人」や「世間」は具体的な人間ではありません。それは一種の抽象概念です。そのような抽象概念が個人の身体の中に刷り込まれてしまうと、一人でもいるときも「はしたないこと」や「さもしいこと」をすることができない。しようと思っても身体がこわばって身動きならない、ということが起きます。神さまが見ているのではないのです。自分自身の中にある「人」が見ているのです。～後略



さてどうでしょうか？かつて日本人がみんな持っていた、プライドや誇りとしての「恥の文化」は引き続き、保たれているのでしょうか？大多数の全体を見渡せば、ほぼ保たれているのではないかと考えられますが、個々の意識の中、或いは一部分の人たちには、この「恥の文化」が少しずつ欠けてきてしまっているようにも感じます。

「誰もみていないから」や「注意されないから大丈夫」というあまい考えは、自分をダメにしてしまうとともに、周りにも影響を与えてしまうことも心にとめて行動すべきです。



生徒についての報告・連絡・相談(ハウレンソウ)または御不明な点は学校まで御連絡下さい。

新潟県立三条東高等学校 生徒指導部 係：坂爪

TEL 0256(38)6461